

第 6 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.02
	鎌倉			

[問題 1]

次の資料を読んで各問いに答えなさい。

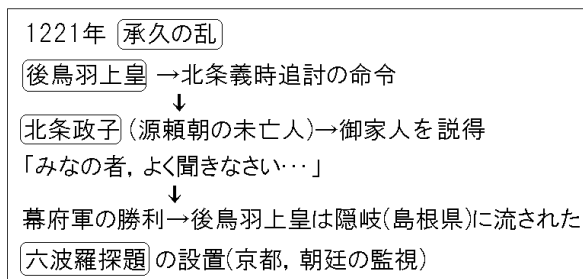
みなの方、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。(A)公が朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は山より高く、海よりも深いものでした。(略)
名誉を大事にするものは、京都に向かって出陣し、逆臣をうち取り、幕府を守りなさい。
もしも B**の味方 になりたいのならば、今はっきりと言いなさい。

- (1) 資料は北条政子が言ったことばです。A に入る人物は誰ですか。
- (2) A の人物と北条政子の関係は次のうちのどれですか。1 つ選びなさい。
[兄と妹 母親と息子 父親と娘 夫と妻]
- (3) 下線 B は具体的に誰をさしていますか。次のうちから 1 人を選びなさい。
[後鳥羽上皇 平清盛 後白河法皇 源義仲]
- (4) 資料に関して、鎌倉幕府が(3)で答えた人物を打ち破った乱を何といいますか。
- (5) 将軍が御家人に恩賞として土地をあげることを「御恩」といったのに対して、将軍に対して忠誠をちかうことを何といいましたか。
- (6) この戦乱のあと、京都を見張るために置かれた役所は何ですか。

[解答欄]

(1) 頼朝(源頼朝)	(2) 夫と妻	(3) 後鳥羽上皇	(4) 承久の乱
(5) 奉公	(6) 六波羅探題		

[解説]



武士の勢力が全国各地で伸びていくにつれて、朝廷や貴族の反感は強まった。ことに公家の経済的基礎である荘園が地頭によっておかされつつあったことは、危機感をいっそう増大させた。

源氏が三代で滅び、有力な御家人の争いが続いたが、こうした幕府の動揺をチャンスとみた後鳥羽上皇は、1221年に、執権北条義時追討の命令を出した。これが承久の乱である。(人に二色(1221)承久の乱) この時代を「鎌倉時代」といっているが、実質的には朝廷と幕府の二大勢力が共存しており、天皇・上皇の朝廷の精神的な権威はいぜんとして大きかった。この知らせを聞いた御家人たちは、朝廷方と戦えば「朝敵」となるのではないかと動揺した。

このような御家人を前に、源頼朝の未亡人である北条政子が「みなの方、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝公が朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、…」と演説したのである。政子は次のようにも言っている。「侍は、昔は3年のあいだ京都の守りにつくことを一生の大事と思い、一族・郎党まで晴れやかに出発したが、3年の京生活に力つき、国に下るときははだしでやっと帰ってきた。それを頼朝殿があわれに思われて、3年を半年に縮めてくださったので、皆よろこんだものだ。この御恩を忘

れて、このたび京方へつくか、将軍に奉公するか、今はっきり言い切ってみなさい。」これで流れは変わった。御家人たちは、頼朝以前の悲惨な境遇を思い出し、団結して朝廷に刃向かうことを決心したのである。

幕府は大軍を率いて上皇方を破り、後鳥羽上皇は隠岐(島根県)に流された。

乱後、幕府は京都に六波羅探題という役所を置いて朝廷を監視するとともに、上皇方についた貴族や西国の武士の領地を取り上げ、地頭に東国の御家人を任命した。

これによって、幕府の支配力は西日本にも強く及ぶようになった。

[問題 2]

次の各問いに答えよ。

- (1) 1221 年、京都の上皇が幕府に対して兵を挙げたできごとを何というか。
- (2) (1)の京都の上皇とはだれのことか。
- (3) (1)の後、朝廷の監視のために置かれた役所を何というか。

[解答欄]

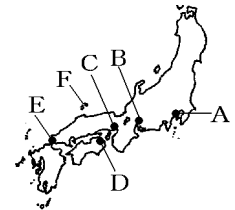
(1) 承久の乱	(2) 後鳥羽上皇	(3) 六波羅探題
----------	-----------	-----------

[問題 3]

承久の乱の後、後鳥羽上皇が流された場所を、右図の A～F から選びなさい。

[解答欄]

F



[問題 4]

次の文の①、②に適語を入れよ。

1232 年に、執権(①)は、武士の権利や義務をまとめた(②)を制定した。

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 北条泰時 ② 御成敗式目(貞永式目)

[解説]

承久の乱の後、地頭の荘園侵略→争い
→公平な裁判の基準をつくるため、
1232年 御成敗式目 (北条泰時 が制定)

承久の乱の後、地頭の勢力が強くなり荘園への支配権を拡大していったため、荘園領主との間で争いがさらに激しくなった。荘園領主は幕府に訴えて地頭の年貢未納をおさえようとした。

しかし、現地に根を下ろした地頭の行動を阻止することは難しかったため、荘園の半分を地頭に分けるなどの妥協が行われた。

このような状況に対処し、公平な裁判制度を確立する目的もあって、1232 年、執権北条泰時は、裁判の基準として御成敗式目(貞永式目)をつくった。

(御成敗式目、一文(ひとふみ)に(1232)) 武士の社会で行われていた慣習にもとづいて、御家人どうしや御家人と荘園領主の間の争い(土地争いなど)を裁く基準を明かにしたものである。

この条文の中で注目すべきは、「武士が 20 年の間、実際に土地を支配しているならば、その権利を認める」ことを定めた条文で、これによって、武士の土地所有権が法的にも保証されたのである。

[問題 5]

次の資料をよんで、各問いに答えなさい。

「この式目は、ものの道理を書いたものである。真実よりもその人の勢力の強さによって判決したりすることもあるので、あらかじめ裁判の基準を定めて、公平に裁判できるように、こまかく書いておいたのである。律令に比べれば多くの人にわかりやすいように書いてある。また、武家の人々のためにつくったものであるから、このきまりによって朝廷の出す律令のきまりが変更されることはない。」

- (1) 上の資料にある「この式目」とは何ですか。
- (2) (1)を定めた人物は誰ですか。
- (3) (1)を定めた目的を資料から抜き出して答えなさい。

[解答欄]

(1) 御成敗式目(貞永式目)	(2) 北条泰時
(3) あらかじめ裁判の基準を定めて、公平に裁判できるように	

[問題 6]

次の表は鎌倉時代におこった新しい仏教の流れを示したものである。()にあてはまる語句・人物名を下の[]から選べ。

宗派名	人物名	救 え
(①)	法然	どのような人間でも、阿弥陀仏の力にすがり、念仏をとなえれば、極楽浄土に生まれることができる。
時宗	(A)	心ひとすじに念仏をとなえ、踊ることによって、仏の境地に達することができる。
(②)	親鸞	自分の罪の深さを自覚し、念仏をとなえるものは、悪人こそ救われる。
臨済宗	(B)	仏の教えの中心は禅であり、戒律であるとし、国が禅を保護し、戒律を守る者が増えれば、国は守られる。
曹洞宗	道元	文字や知識に頼らず、ひたすらに座禅を行なうことによって、仏の境地に達することができる。
(③)	(C)	シャカのほんとうの教えは法華經にあり題目をとなえれば、国も人も安らかになる。

(宗派名) [浄土宗 浄土真宗 日蓮宗 天台宗 真言宗]

(人物名) [日蓮 一遍 栄西 行基 一休]

[解答欄]

①浄土宗	②浄土真宗	③日蓮宗	A 一遍
B 栄西	C 日蓮		

[解説]

[鎌倉仏教]

簡単でわかりやすく、実行しやすかった
念仏の系統

浄土宗：法然 念仏を唱えれば極楽浄土に往生

浄土真宗：親鸞 悪人正機説

時宗：一遍 踊り念仏

禅宗の系統：座禅

臨済宗(栄西)

曹洞宗(道元)

日蓮宗 日蓮 題目



鎌倉時代にあらわれた仏教の各宗派は簡単でわかりやすく、実行しやすかったので、民衆の心をとらえ広がっていった。

第一は、平安時代の浄土信仰の流れをくむ念仏(南無阿弥陀仏)の系統である。法然は浄土宗を開き、きびしい修行を行わないでも、阿弥陀仏にすがり「南無阿弥陀仏」ととなえさえすれば極楽浄土に往生できると説いた。法然の弟子の親鸞は浄土真宗を開き、「善人ですら往生できる、まして悪人ならなおさらのことだ」という悪人正機説をとらえた。ここでいう「悪人」とは「悩みの多い人」という意味である。慈悲深い阿弥陀仏は、こうした悩める人こそ救おうとしているのだと説いた。一遍は時宗を開き、布教の方法として右図のような踊り念仏を取り入れ、全国を歩きまわって布教した。(かねをたたき足をふみならして「南無阿弥陀仏」をとなえる一遍とその弟子の様子がうかがえる)

第二は、禅宗の系統である。栄西は宋にわたって禅宗を学び、臨済宗を開いた。座禅というきびしい修行を通して自分で悟りを開くことを重視したが、これは武士の気風によく合ったため、武士の間に広がり、幕府の保護を受けた。道元は、ただひたすら座禅に徹せよと説き、山中にこもって曹洞宗を開いた。第三は、題目(南無妙法蓮華經)の系統である。日蓮は日蓮宗を開き、法華經こそ仏教の根本であると説き、他宗をきびしく批判した。

[問題 7]

鎌倉時代の新しい仏教の特色を次のア～エから 1 つ選べ。

- ア いずれも人里離れた山奥での修行を重んじた。
- イ 武士の気風に合った宗派が多かったことから、幕府に保護された。
- ウ わかりやすく、実行しやすい教えが多く、武士や農民の間に広まった。
- エ 武家の精神に反するとして、幕府より厳しい迫害を受けた。

[解答欄]

ウ